

うがい手洗い 病原体撃退だ

北大・高岡教授ら 保育園に出張講義

まもるんジャー(手前右から5人目)とともにインフルエンザウイルスに感染した細胞(こぼちこぼちイーマン)をよっつける園児たち



細菌やウイルスなどの病原体から体を守る免疫のしくみを北大の研究者らが幼児に教える出張講義「からだをまもるんジャーのはなし」が13日、札幌市北区の新琴似南保育園で行われた。約40人の園児が、体の中で繰り返されている目に見えない世界を学んだ。

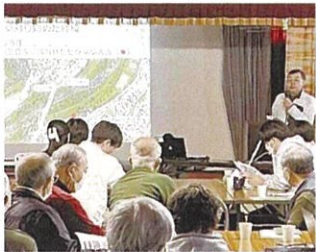
北大遺伝子病制御研究所の高岡晃教授(56)は免疫学Ⅱの研究室のスタッフや学生ら計15人が出向いた。体を守る免疫戦隊「まもるんジャー」が、体に侵入してきた病原体「ばちこぼちイーマン」をやっつける劇を上演した。園児たちは、ばちこぼちイーマンに向け抗体に見立てたボールを投げ、まもるんジャーに加勢した。最後に、免疫戦隊を率いる司令官役の高岡教授が、子どもたちもまもるんジャーになれる方法について「うがい、手洗い、よく寝る、よく食べる」の四つです。毎日行ってください」と呼び掛けた。

出張講義は幼稚園や保育園を対象に2015年に始まり、これまでに市内の15の園などで千人以上に教えた。コロナ禍で20年以降休止しており、この日は4年ぶりだった。高岡教授はこの講義などの保健衛生教育活動が評価され、本年度の保健文化賞(第一生命保険主催)に選ばれた。

ヒグマ対策活動 課題を意見交換

南区でフォーラム

道内各地でヒグマ対策の市民活動に取り組む人たちが情報交換をする「小グマフォーラム」が、札幌市南区の石山ひろばで開かれ、活動が続ける上での課題や将来像などについて意見を交わし合った。



十勝管内浦幌町などでヒグマの生態を研究している「浦幌ヒグマ調査会」の主催で、10日に開かれた。市民によるヒグマ対策の活動が増えつつある中、ネットワークを築こうと初めて企画の侵入を防ぐために続けてきた草刈り活動について報告する寺田さん